

社会科学学習指導案

福山市立曙小学校
指導者 橋本 秀基

1. 日時・場所 平成 15 年 11 月 28 日 (金) 6 年 1 組教室
2. 学年 6 年 1 組 37 名
3. 単元名 「新しい日本へのあゆみ ～向上する国民生活・大新涯から曙へ～」
4. 単元について

【教材観】

戦後の日本は、日本国憲法を新しく制定し次々と民主化政策を展開しながら、社会の仕組みを大きく変えていった。それから約 20 年後の日本はこれまでにない大きな転換期を迎えた。高度経済成長期と呼ばれた 1960 年代は、これまでの改革の上に国民生活のゆたかさを求めた時代であった。様々な技術の進歩による工業製品の普及や高速道路、新幹線などの交通網の発達で、国民の生活は一気に向上し、物質的に便利でゆたかになっていった。また、敗戦後 20 年あまりしかたっていないこの時期に、日本は東京オリンピックを開催し、国際社会においても重要な役割を果たせるまでになった。しかし、日本全体を取り込んだその波は、国民生活にゆたかさをもたらしたと同時に、多くの課題も生み出してしまった。公害、過密、過疎、核家族化などの社会問題がそれである。これからの日本は、こういった国内の社会問題の解決を図りながら、国際社会における責任ある役割を果たし、地球規模で様々な問題解決に当たらねばならないのである。

この、高度経済成長の波は曙にも、ゆたかさをもたらすことになる。もともと曙の地は江戸時代の終わりに、福山藩の財政難を解消するために行われた干拓事業で、できあがった土地である。潮止の際には 2500 人もの労力を要した大工事であった。こうしてできた、当時大新涯と呼ばれたこの土地では、明治初期に入植が始まるが、そこでの生活は苦勞が絶えることがなかった。土地に混じる塩分のため、すぐには稲作もできなかった。また、その塩分を一日も早く抜き去るために用水路と悪水路を設置したり、度重なる堤防の決壊による水害との闘いなど、今を生きる子ども達には想像もできないほどの苦勞の連続であった。これらの苦勞の末、大新涯は昭和の時代には県下有数の農業地帯への成長を遂げることができた。そして迎えた、1960 年代。大新涯と呼ばれた地域は区画整理され、現在の曙町が誕生する。多くの工場が誘致され、町の様子も一変し、地域住民の生活も一気にゆたかになっていった。つまり、日本全体が高度経済成長を遂げていった中、曙も確実に成長を遂げていったのである。

しかし、生活が物質的な面で幸せになっても、曙に生きる人々がそのゆたかさに満足しているばかりではない。92 歳の曙の長老は、この曙の変化を振り返り次のように語っている。「生活は便利になったが、なくした物も大きい……。海での漁業、地域の環境も一変した。なにより、地域住民の結束力。みんなで支え合って生きていこうとする姿が無くなってしまった。」続けて長老は「曙の水路を汚す者は曙に生きる資格はない。」とも語った。

6 年生の社会科では、先人がその時代その時代の世の中の課題や人々の願いを実現するために様々な知恵を出し合い、国家、社会の発展に大きな働きをしていったことを理解させることをねらっている。本単元でも、日本の民主化と高度経済成長を支えた国民の不断の努力をつかませることが大きなねらいである。そのためには、当時を生きた人々の生の声を聞いたり、生き方を見つめることが重要になってくる。92 歳の長老の地域に対する思い、子ども達に大切にしたいと願うこと、それらをしっかりと見つめさせたい。そして、それらをもとに、自分がどのように曙や日本の中で生きていくかを考えることで、「地域を愛し、自分を大切にしながら高まろうとする意欲」が高まり「自他を尊重し、社会への貢献ができる人間」へと成長がとげられ、「公民的資質の基礎を養う」ことへとつながるのではないかと考える。また、これからの国際社会を生きていく子ども達が地球規模で将来を考える際、自分たちの身近な先人の工夫や苦勞は、思考の根拠として大変重要な役割を果たすと考えられる。

【児童観】

本学級の子供達は歴史学習にとっても強い興味を持って学んでいる。しかし、教科書や資料集を

もとに日本の歴史を学ぶ段階では、歴史的事象の起きた場所や時間が子ども達の住む世界とは離れており、先人の知恵や苦勞もどこか人ごとになっている面があり、学んだことから自分の生き方を見つめなおす所までにはなかなか到達しきれていない。そこで、江戸時代以降の学習では、それぞれの時代における曙、大新涯の歴史を調べる学習を取り入れてきた。そうすることで、各時代を生きた人々の知恵や苦勞を身近なものとして捉えさせ、自分の生活を見つめ直すことができるように心がけてきた。

実際の学習方法については、問題解決的な学習展開を取り入れながら学んできている。学習問題にたいして、自分の考えを確かめるための調べ学習に取り組む中で、様々な文献資料やインターネットを活用しながらの調べ活動を行い、自分に必要な資料集めができるようになってきている。しかし、なかにはグループの活動のなかで、友達に頼ってしまい、主体的な調べ活動が十分にできていない児童もいる。集団思考の場面では、根拠に基づいた発言を行うように意識づけをしてきた。もともと自己肯定感が低く、なかなか自分の考えをみんなの前に出していくことが難しい児童が少なくない状況の中、討論という形を取り入れた集団思考を行うことで、積極的に自分の考えを出し合う場をつくった。少しずつではあるが、自分の考えをしっかりと出していける児童が増えてきている。

曙、大新涯についての歴史について、この地が干拓で作られた土地であるということは、多くの子ども達が知っている。しかし、度重なる水害や塩害との闘い、作物の変遷についてなどはほとんどの子ども達がこれまで知らないままであった。したがって本単元前に行った「大新涯調べ」の学習では、干拓の歴史・水害や塩害との闘い・大新涯の人々のくらしについて、文献資料をもとに調べさせた。その活動のなかで子ども達は意欲的に調べ活動に取り組むとともに、当時の人々の生き方に共感したり、自分たちの地域への愛着を感じながら、自分のくらしを見つめ直すとする意識も見えてきた。

【指導観】

指導にあたっては、高度経済成長という歴史的事象を子ども達にとってより身近なものとして捉えさせるために、日本の高度経済成長期の調べ学習に入る前に、大新涯から曙への変遷、つまり、曙の高度経済成長を調べさせていきたい。その調べ学習をもとに、日本の高度経済成長についての学習に発展させていきたい。また、当時の国民生活の向上ぶりを実感させるために、曙のお年寄り（その成長を曙で体験し、なおかつ、今の曙を愛し続けようとしている人。）から「家庭生活について、いつ頃、何によってゆたかになっていったのか」などについて、聞き取り調査をさせたい。また、その成長の裏で起きた数々の社会問題についても見つめさせていきたい。

そして、日本の歴史のまとめとして、これまでの歴史学習で学んだことを振り返り、何を受け継ぎ、何を乗り越えるかを考えさせたい。そのことにより、自分たちが、高まりをもとめて生きていくことが日本や曙をもっと良くして行くことにつながるということに気が付かせていきたい。

（参考資料）

- ・『聞き書き大新涯物語』
- ・『新涯開発100年史』

5. 単元目標

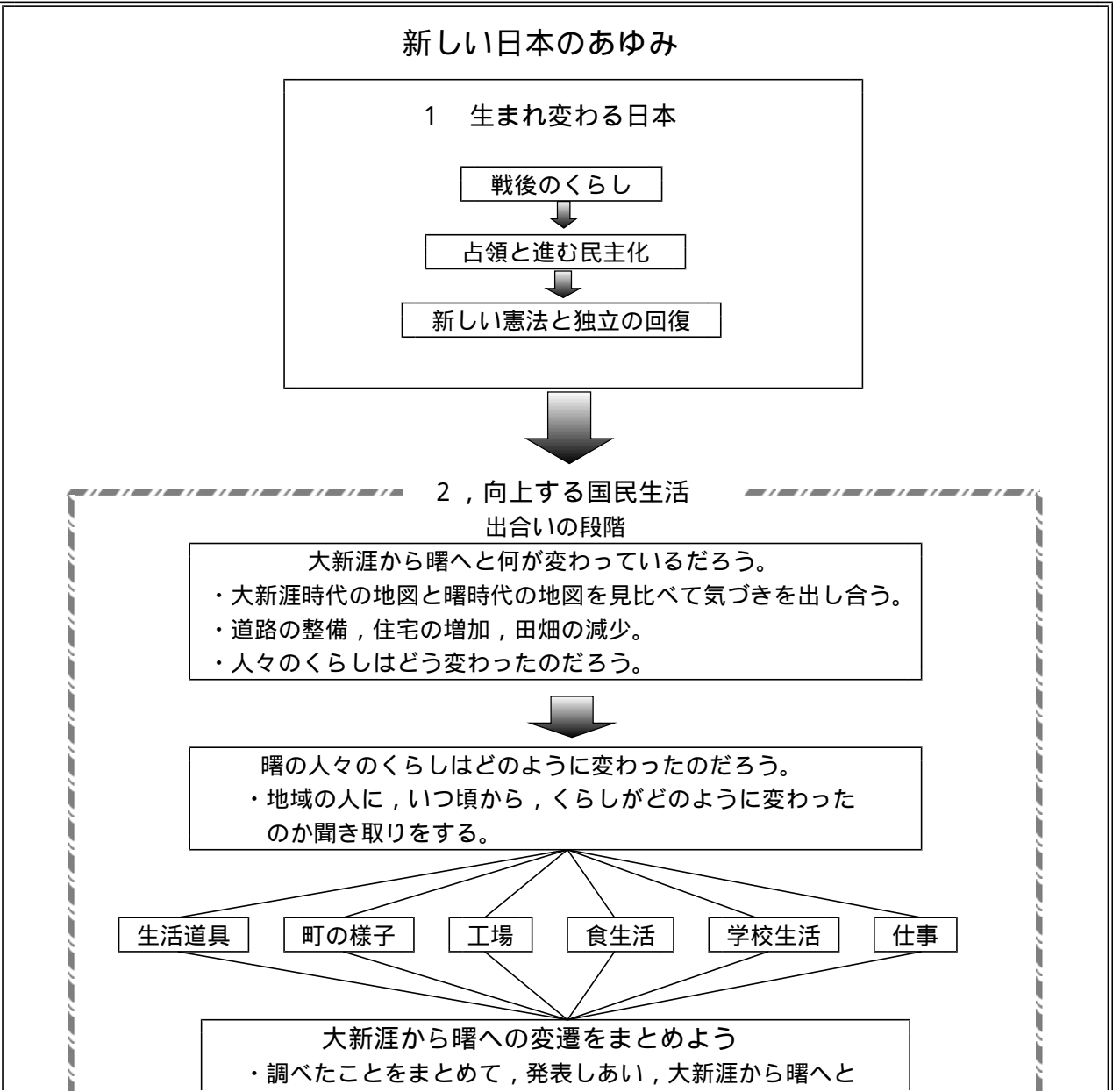
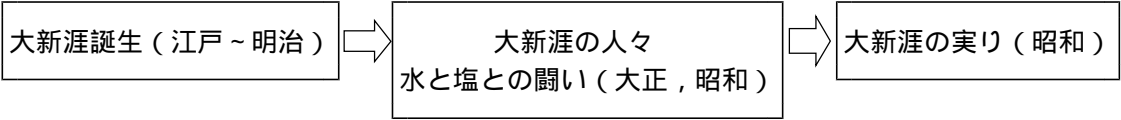
- ・戦後の民主化のための諸改革や高度成長期における、世の中の変化、それを支えた国民の努力を理解するとともに、これからの国際社会における日本の役割について興味を持ち、自分達の果たすべき役割を考え、これからの日本や地域をよりよくしていこうとする態度を育てる。

6. 単元の評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考判断	観察・資料活用の 技能表現	社会的事象についての 知識理解
・戦後の諸改革や、高度成長期の日本や曙の変遷について、意欲的に調べ、これからの地域や国際社会においての	・20年足らずの間に日本がゆたかに変貌を遂げた背景や、そのために発生させてしまった社会問題について考え	・日本や曙の社会の変化について、文献資料や聞き取り調査などから調べて、わかりやすくまとめる。	・戦後の民主化の諸改革や、高度成長期における国民生活の変化及び日本が国際社会において重要な役割を果たす

日本の役割に興味を持ち、これからの日本や地域をよりよくしていこうとする態度を身につける。	る。	ようになっていることを理解する。
--	----	------------------

7. 単元構造図（12時間）



移り変わっていった時の様子をまとめる。
・くらしの変化が1960年代に集中していることをつかむ。



学習問題の決定の段階

なぜ、1960年代に曙の人々の生活が
急激にゆたかになっていったんだろう？

- ・60年代に何か大きな出来事があったのかなー。
- ・日本全体で大きな変化があったのかなー。



追究の段階

1960年代以降の福山や日本ではなにが起こっていたのだろうか？

- ・1960年代の福山や日本の歴史を調べ、高度経済成長の波の中で、日本全体が、大きな転換期を迎えた事実を調べる。
- ・1970年代以降は、日本が国際的に重要な役割を果たしていることをつかむ。



交流する段階 6 - 2 本時

大新涯から曙へ・・・そして、これからの曙

「なぜ、曙の人々の生活が急激にゆたかになっていったんだろう？」

- ・調べた事実をもとに、曙の暮らしがゆたかになっていったのが、高度経済成長のためであったことを確認し合う。
- ・高度経済成長の影に様々な課題も生み出されていった事を確認する。



振り返る段階

歴史から学んだ、受け継ぐべき事・乗り越えるべき事

- ・日本の歴史や曙の歴史から、これからの自分のくらしに受け継ぐべき事と乗り越えるべき事を考える。



振り返る段階 6 - 1 本時

歴史から学んだ、これからの自分

なぜ受け継ぐのか。なぜ乗り越えるのか考えよう。

- ・日本の歴史から学んだことを交流し合い、これからの自分の生き方を考える。

8. 単元指導計画

段階	回数	時数	学習問題と学習活動の流れ	指導上の留意点	評価規準				評価規準	評価基準			評価方法
					関	思	技	知					
出 合 う	一	1	大新涯から曙へと何が 変わっているだろう。 1960 年代の前後の曙の写 真を比べ違いを見つける。	区画整理前後の様子がわか る写真を提示する。	○				・ 区画整理前後の曙の様 子を比べて違いに気付 く。	A 区画整理前後の町の変化に気 付き、くらしがかわって いるという予想が持てる。 B 区画整理前後で、道路、住宅、 田畑の様子が違っていること に気がつく。 C 区画整理前後の変化に気がつ くことができない。		・ 発表 ・ 学習プリン ト	
		2	曙の人々のくらしはどの ように変わったのだろう。			○			・ くらしの移り変わりを 調べる計画をたてる。	A 聞き取りという方法に気づ き、聞きたいことを六項目以 上考えることができる。 B 聞き取りという方法に気づ き、聞きたいことを三項目以 上考えることができる。 C 聞き取りたいことを整理する ことができない。		・ 学習プリン ト	
		3	- 大新涯から曙への変遷を 調べるための方法を話し 合う。 - 地域の人に、いつ頃から どのように、くらしが変 わってきたのかを聞き取 りする。	- 何が知りたいのかを考え させながら、方法を考え させる。 - 聞き取りに向けて、テー マを決めたり、質問項目 を整理させる。 - 地域の人にあらかじめお 願いしておく。			○	・ 聞き取ったことを整理 して記録する。	A 聞き取った全項目を、きちん と記録整理している。 B 聞き取った内容を七割は記録 している。 C 聞き取った内容の記録が半分 しかできていない。		・ 学習プリン ト		
		4	大新涯から曙への変遷を まとめよう。	伝えたいことをハッキリ とさせて資料作りをさせ る。			○	・ 聞き取った内容をわか りやすく資料にまとめ る。	A 聞き取った内容を箇条書きに したり、項目整理するなどし てわかりやすくまとめてい る。 B 聞き取った内容を表にまとめ ることができる。 C 聞き取った内容を資料にまと めることができない。		・ 作成資料 ・ 行動観察		
		5	- 聞き取りした内容をもと に、曙の変遷を資料にま とめる。 - お互いにまとめた内容を 発表しあう。 - 曙の人々の生活の変化の 共通点や特徴をつかむ。	くらしの変化が起こった 時期に着目させる。		○		・ 曙のくらしの変化につ いて考え、1960 年代に 生活がゆたかに変わっ ていったことに気付く。	A くらしがゆたかになっていっ たのが 1960 年代であったこ とに気がつき、なぜなのかと いう思いが持てる。 B くらしがゆたかになっていっ たのが 1960 年代であったこ とに気がつく。 C くらしがゆたかになっていた のがいつごろのことか気がつ かない。		・ 学習プリン ト ・ 発言		

学習問題決定の段階	二	6	なぜ1960年代に曙の人々の生活が急激にゆたかになっていったのだろうか？ - 聞き取り発表からの疑問を集め、学習問題を決定する。 - 学習問題の仮説をたてる。	子ども達の疑問を集約して学習問題にまとめていく。	○				曙のくらしの変化に興味をもって学習問題や予想を立てることができる。	A B C	学習問題と同時に、その予想を持ち、それを調べる手だても考えることができる。 学習問題とその予想を立てることができる。 学習問題や予想を立てることができない。	- 発言 - 学習プリント
追究の段階	三	7	1960年代から70年代の福山や日本ではなにが起っていたのだろうか 1960年代から70年代の福山や日本の歴史を調べる。	- 工業生産の変化 - 主な出来事 - 工業地域の発展 - 交通網の整備 - 国際化 - など視点を決めて調べる。			○		1960年代から70年代の福山や日本の様子について調べることができる。	A B C	60年代から70年代の事について調べ、具体的な統計資料資料などをもとに説明づけようとしている。 60年代から70年代の社会の変化の様子を年表などから調べることができる。 60年代から70年代の社会の変化の様子について調べることができない。	- 行動観察 - 学習プリント
交流する段階	四	8	6 - 2本時 なぜ1960年代に曙の人々の生活が急激にゆたかになっていったのだろうか？ - 調べたことを出し合いながら問題の解決をはかる。 - 工業の発達 - 技術の進歩 - 国際化の項目でまとめる	- 日本が高度経済成長期にあったことを押さえる。 - オリンピックが開催されたり、交通網が整備されたり、各種電気製品が普及していった様子を確認する。 - ゆたかになったのは何がゆたかになったのかを考えさせる。			○		1960年代の日本は高度経済成長期をむかえ、日本国中が、大きく転換したことを理解する。	A B C	高度経済成長期の日本の変化の様子と、そのために起きた社会問題とを併せて説明できる。 高度経済成長期の日本の変化の様子を理解する。 高度経済成長期の変化の様子が理解できない。	- 学習プリント - 発言
振り返る段階	五	9	受け継ぐべき事、乗り越えるべき事を考えよう。 日本の歴史、曙の歴史を振り返り、受け継ぐべき事、乗り越えるべき事を考える。	様々な歴史的事象から、自分のくらしに役立つ考え方や生き方を見つけさせる。			○		様々な歴史的事象から、自分のくらしに役立つ考え方や生き方を見つける事ができる。	A B C	自分のくらしに役立つ考え方や生き方を7つ以上見つける事ができる。 自分のくらしに役立つ考え方や生き方を5つ以上見つける事ができる。 自分のくらしに役立つ考え方や生き方を3つ見つける事ができない。	学習プリント
		10	6 - 1本時 歴史をもとに考えた、自分の目指す姿を交流しよう。 日本の歴史や曙の歴史が	歴史的事象を根拠として説明させる。			○			A	国際社会に生きること意識して、歴史で学んだことをもとに、自分自身がよりよく生きることが日本や曙をもっと良くしていくことにつながる	- 学習プリント - 発表

			ら学んで考えた，自分の 目指す姿，生き方を交流 し合う。 なぜ受け継ぐのか。なぜ 乗り越えるのか考えよう。 ・なぜ，そのような姿の自 分を目指すのかを考える。						・歴史で学んだことをもと に，よりよく生きること が日本や曙をもっと良く していくことにつながる という気持ちを持つ。	----- B ----- C -----	という気持ちを持てる。 ----- 歴史で学んだことをもとに，自 分自身がよりよく生きることが 日本や曙をもっと良くしていく ことにつながるという気持ちが 持てる。 ----- 歴史で学んだことをもとに，自 分自身がよりよく生きることが 日本や曙をもっと良くしていく ことにつながるという気持ちが 持てない	
--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

9. 本時の目標

- ・自分たちの生きる地域や日本を，もっと良くしていくために，日本の歴史や曙の歴史から学んだことをもとにして，自分自身がよりよく生きようとする態度を身につける。

10. 本時の展開

段階	学 習 活 動	指導上の留意点	評 価 基 準
導入	1, 前時の振り返り 日本の歴史や曙の歴史をもとに， これからの自分の目指す姿考えた ことを振り返る。	・自分が考えた学んだことの根拠となる歴史的事象を確認させる。	
展開	2, <学習問題 1> の提示 歴史をもとに考えた，自分の目指す姿を交流しよう。		
	3, 日本や曙の歴史から学んだ，自分の目指す姿を発表する。 ○協力して力を合わせて生きる。 ・米作りの歴史より ・大仏作り・山城の国一揆より ・大新涯の干拓，水害の歴史より ○あきらめずに新しいことに挑戦し続ける。 ・聖徳太子の政治・鑑真，杉田玄白，伊能忠敬の生き方・全国水平社の歴史・大新涯を生き抜いた人の生き方 ○暮らしを少しでも高めようと努力する。 ・鎌倉，江戸時代の農民の努力 ・大新涯の塩害への工夫 ○困っている人を助けてあげられる人間になりたい。 ・大塩平八郎，田中正造の生き方 ・大新涯を生きた人々の生き方 ○人の命を大切にできる人間になりたい。 ・身分制，太平洋戦争，韓国併合 ・大新涯の人の生き方 ○自分の考えをしっかりと持ち，主張できる人になりたい。 ・自由民権運動，社会運動	・自分がどうしてそうありたいと願うかを，日本や曙の歴史事象や人物の生き方を根拠に説明させる。 ・同じ目指す姿を友達が考えていても，自分の根拠・言葉で語らせるように促す。 ・今の自分の姿をどう変えていきたいかを具体的に言わせる。 ・受け継ぎたいのか，乗り越えたいのかを意識させる。 ・目指す姿を考えることは，日本の歴史や曙の歴史から学んだことを受け継いだり，乗り越えたりすることなんだということを確認する。	A 国際社会に生きることを意識して，歴史で学んだことをもとに，自分自身がよりよく生きることが日本や曙をもっと良くしていくことにつながるという気持ちが持てる。
	4, 学習問題 2 を提示する なぜ受け継ぐのか，なぜ乗り越	・なぜ，そのような姿の自分になりたいのかを考えさせる。	B 歴史で学んだこと

ま と め	えるのか考えよう。 ・ 幸せに暮らしたいから。 ・ 先人に負けたくないから。 ・ もっといい曙にしたいから。 ・ もっといい日本にしたいから。 5 , まとめ ・ < 学習問題 2 > について記述させ、発表させる。 歴史で学んだことを、これからの生活に生かして、もっと良い曙、もっと良い日本、もっと良い自分になっていこう。	・ 自分の生き方を決めるに当たっての目的意識を持つことの必要性に気が付かせる。 ・ 自分の生きる、地域や国に誇りを持ち、愛着を感じていることに気が付かせる。 ・ 日本を大切にしたいか、曙を大切にしたいかを挙手で問う。 これからの国際社会を生きていくためにめめにも、目的意識をもって生きていくことが大切であることを伝える。 日本や曙に生きる人々が、よりよく生きれば、曙や日本がどんな地域や国になるかを考えさせる。	をもとに、自分自身がよりよく生きることが日本や曙をもっと良くしていくことにつながるという気持ちが持てる。 C 歴史で学んだことをもとに、自分自身がよりよく生きることが日本や曙をもっと良くしていくことにつながるという気持ちが持てない < 発表・学習プリント >
----------------------	---	---	--